

## 第 147 回（2023 年度秋季）大会若手研究者優秀賞選考報告

### 1. 選考の経緯

#### ・第 1 回選考委員会（9 月 19 日：メール審議）

選考委員は、伊藤大一、小尾晴美、田中弘美、山田壮志郎の 4 名。選考対象者リストを作成し、今後の選考日程を決定した。また、選考委員長に山田を互選した。

#### ・第 2 回選考委員会（9 月 28 日：メール審議）

締め切りまでに提出された 12 本のペーパーを対象に一次選考を行い、うち 6 本を二次選考の対象とすることとした。

#### ・第 3 回選考委員会（9 月 29 日：オンライン会議）

二次選考を行い、優秀賞授与対象者を決定した。その後、本人に対して若手研究者に該当することの確認を行った。

#### ・第 4 回選考委員会（10 月 1 日：メール審議）

選考報告書を決定した。

### 2. 選考の結果（受賞作）

梶原豪人「子どもの所有物の欠如といじめ被害の関連に関する実証分析」

### 3. 選考の理由

本研究は、貧困に起因する子どもの所有物の欠如がいじめ被害の要因となりうるか、またどのような所有物が欠如している場合にいじめ被害に逢いやすいのかを明らかにすることを目的としたものである。関東地方の 4 市において小学校 5 年生と中学 2 年生を対象に実施された「子どもの貧困実態調査」のデータを統合し、いじめられた経験があったとの回答を被説明変数とし、所有物の欠如を説明変数とした解析を行っている。その際、「たいていの友だちが持っているおもちゃ」「おやつや、ちょっとしたおもちゃを買うおこづかい」「友だちが着ているのと同じような服」の 3 項目で構成される「仲間に溶け込む（Fitting in）」ための所有物の所有状況を示す F 得点、「自分だけの本」「子ども部屋」「自分専用の勉強机」などで構成される「社会経済的地位（SES）を代替する」所有物の所有状況を示す S 得点に分け、さらに所属する学校レベルでの F 得点平均値も含めて分析に用いている。分析の結果、両学年ともに F 得点はいじめ被害に統計的に有意に関連するが S 得点に関連しないこと、学校レベルでの F 得点の平均値はいじめ被害の逢いやすさに関連しないことを明らかにしている。この結果から、いじめ被害は貧困に起因する所有物の欠如に関連しており、とくに SES に代替される所有物よりも「仲間に溶け込む」ために必要な所有物が重要であり、子どもの貧困対策といじめ防止対策を架橋する政策が重要であることを指摘している。

審査委員からは、貧困家庭の子どもは所有物の欠如により学校内で仲間に溶け込むこと

ができずいじめ被害に逢いやすいというテス・リッジの知見を実証的に発展させようとする意欲的な研究であること、先行研究の丁寧な検討に基づいて理論枠組みと仮説が設定された手堅い研究であること、SESを代替する所有物と「仲間に溶け込む」所有物を分けて分析することで所有物といじめ被害との関連を俯瞰的に分析できていることなどが高く評価され、子どもの貧困研究に貴重な知見を提供する優れた研究成果であるとの意見で一致した。

一方、被説明変数であるいじめ被害の有無が本人の主観的な回答に依拠しているため実態との齟齬の可能性が懸念されること、政策的な示唆を深めるためにはいじめる側の条件のような集団のあり方や学校によるいじめ防止の取り組みなども考慮する必要があることなどの課題も指摘された。論文化の過程や今後の研究活動でのさらなる発展を期待したい。

(文責：山田壮志郎)